

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体理事長 半田晴久  
新エネルギー委員長 中島稔  
両団体専務理事 清原淳平

## 新エネルギー委員会のお知らせ (第346回)

日時 令和2年11月5日(木) 午後2時～4時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時半より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、バイオマスからプラスチック原料を製造する固体触媒

解説 原亨和東京工業大学科学技術創成研究院教授

3、『新エネルギー関連ニュースNO.199』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る10月7日開催の第345回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

はじめに、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。新型コロナウイルスの影響で、エクソンは17億\$、シェブロンは30億\$と石油大手は軒並み赤字となっている。半年前に原油価格がマイナスになったことが話題となったが、この時は余った原油を中国が買い占めたらしい。その影響はシェールガスにも及んでいる。これは石油時代の終焉と再生可能エネルギー時代の到来を意味するのではないだろうか。カタールのような産油国ですら大規模な太陽光発電施設を建設し始めたという。再生可

能エネルギーは伸びないといわれている。振り返れば、蒸気機関やパソコンも出始めの頃は伸びないと言われていたが、発展はあつという間に訪れた。いずれ再生可能エネルギーが大きなシェアを占めても不思議ではない。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.198』の解説がありました。今回は、○リチウムイオン電池の充電過程を解明。長寿命化への一歩。○白金より耐久性を持ったダイヤ状の炭素を使った燃料電池電極。水素を用いた製鉄や燃料電池車生産など、脱炭素化に向けた財界の動き。○牛糞を発酵させたバイオ発電。○バイオマスからプラスチック原料や医薬品を製造する技術。○日本国内の再生エネの割合が政府目標より10年早く23%に。太陽光・風力・バイオマス・水力それぞれ20%近く上昇し、政府目標の引き上げを求める声も。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、清原淳平専務理事より、富永基樹早稲田大学准教授の経歴紹介がありました。次に、富永准教授より、「化石燃料代替バイオディーゼル生成技術」と題して解説をいただきました。植物では細胞内で原形質流動という活発な運動が発生している。たんぱく質の一種ミオシンがモーターのような役割を果たしている。この運動の力は弱いが速度は動物と変わらないほどの性能を持っている。遺伝子組み換え技術を応用し、ミオシンの性能を向上させれば、植物が大型化し、かつ大量生産できるのではないかと考えた。まず、シロイヌナズナで実験したところ、高速化したミオシンを導入したナズナは通常の倍の大きさに育ち、原形質流動の速度と生育に相関関係があることを確認した。次に、バイオディーゼルの原料となり、やせた土地でも育つカメリナでも実験を行い、同様の結果が得られた。ゆくゆくは、食糧となりうる植物の増産や、CO<sub>2</sub>を吸収する効果を高め、温室効果ガスの排出を抑える効果にも期待したい。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、11月5日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)